

ワークショップ

「哲学的」という神話 哲学教育とは何をすることなのか

笠木雅史（名古屋大学）
成瀬尚志（大阪成蹊大学）
稲岡大志（大阪経済大学）

応用哲学会(2019/04/20)

リテラシー神話(The Myth of Literacy)

「リテラシー神話とは、リテラシーの獲得が経済発展、民主的
生活、認識向上、上流階級への移動に對する先行条件にして不
育的、内政的、宗教的、その他の文脈で明言されてきた。」
Graff (2011: 35)

リテラシーの向上が、個人と社会両方にとっての経済的、政治
的、技術的、文化的発展をもたらすという信念

Graff (1979)は、19世紀の大量の文献を調査し、リテラシー神
話が登場した背景と、それが登場時にすでに誤りである（リテ
ラシーは必ずしもそうした成功と結びつかない）と示した（社
会階級、人種、年齢、ジェンダーなどに左右される）。

リテラシー神話(The Myth of Literacy)

この神話は以下のように生み出され、維持、強化される：

- (1) 産業が急速に変化する時、新しい職種に対応するスキルを持った労働者が必要な財界人は、そのスキル取得を教育制度に委託しようとする
- (2) 教育界は産業の変化に即座に対応して必要なスキルを教育する準備も人材も持っていない
- (3) そこで教育界が教えやすいリテラシーが、社会的、経済的成功のためのスキルとして選ばれる
- (4) リテラシー教育が社会要請に答えるものであるため、教育界にとってもリテラシー神話は有益
- (5) リテラシー神話にもとづくリテラシー教育を受けた人材が社会に出ることで、さらに(1)の傾向が強まる

リテラシー神話(The Myth of Literacy)

現代もリテラシー神話が、再び形を変えて現れてきた時代の一つ

情報リテラシー、21世紀型スキル、PISAスキル、コモンコア

すでに現代のリテラシー神話の再生産を批判する論文も多数書かれている

異見交論44（上） 国立大学は納税者への責務を果たせ 神田真人氏（財務省主計局次長）

1991年の大学設置基準大綱化以降の大学改革が「失敗の連続」という指摘もあつた。大綱化以降には「教養部の廃止」「大学増え急増。それがコストが増加」などがある。これは「想定内」だったの

神田：成敗も失敗もあつた。大綱化以降には「教養部の廃止」「大学増え急増。それがコストが増加」などがある。これは「想定内」だったの。神田は「中動普及」が、はじめて、ググって「答えイロイロ」を「教養部」も「海二思高」を「廃止」も「力」を「分析」も「一」を「し、い」が「をい」。対応「世延え」。て「ル」なる「哲学」。い「ア」って「現学」。か「一」て「代」や「な」つ「て」に「歴史」。なく「は」る「お」し、て「き」し「いと」。

そ「も」断「う」ん「め」。そ「も」に「な」つ「て」。そ「も」任「り」勉「格」。大「た」ら「し」点。大綱化「ア」る「は」。当「が」ツ「か」。時「を」を「を」。教「結」提「教」。養「果」供「え」。部「を」ご「て」れ。廃「止」の「先」。し「通」か「生」。ろ「り」と「を」。と「だ」い「育」。国「は」学「ば」て「い」。言「生」の「ダ」る。っ「の」メ「か」。て「学」習「た」と「い」。な「成」し「う」。い「果」。に「学」。各「大」び「が」や「は」。

「哲学的」という神話

哲学的思考力

哲学的問題の発見力

哲学的探求力

教養としての哲学, etc.

これらが近年喧伝されるのは、「リテラシー神話」と同じ構造なのではないだろうか？

「哲学的」ということの意味を改めて再考する必要がある。

参考文献

Graff, H. (1979). *The literacy myth: Literacy and social structure in the nineteenth-century city*. New York, NY: Academic Press.
Graff, H. (2011). *Literacy, myths, legacies and lessons: New studies on literacy*. New Brunswick: Transaction.

読売教育ネットワーク(2018)「異見交論44(上) 国立大学は納税者への責務を果たせ 神田真人氏(財務省主計局次長)」
<http://kyoiku.yomiuri.co.jp/torikumi/jitsuryoku/iken/contents/44.php>